

黄 強*

Qiang HUANG *



上海市民衆の宗教信仰活動の実態

— 仏教寺院と道教施設の定例的行事を中心として —

The current status of faith-based activities by residents in Shanghai

— A Study of Annual Event by Buddhists and Taoists —

(一)

中国が「改革開放政策」を実施してすでに30年以上になる。「社会主義市場経済」という独特な政策により、中国の経済力と生活水準は飛躍的に上昇している。特に、上海市や江蘇省、浙江省など東南部の沿岸地域では驚異的な経済発展がみられ、今や先進国に追いつこうとしている。そのような中で、宗教活動の復興も目覚ましい勢いで進展している。

周知のように、中国の諸宗教は1966年から1976年までの「文化大革命」で、「封建迷信」と見なされて壊滅的な打撃を受けた。上海市においても仏教や道教、キリスト教、イスラム教などの宗教施設は全国各地の宗教施設と同じく、1966年4月に閉鎖され、学校や工場、商店などに占用された。僧侶や道士、神父、牧師などの宗教職能者は全員還俗、転職を強制され、全ての宗教活動が禁止された。また、祖先崇拜や死者供養、墓参りなど、中国人の生活に溶け込んだ宗教信仰活動も「迷信活動」として禁止された。

「文化大革命」の10年間に於いて、宗教信仰は中国の表舞台から姿を消していた。

「文化大革命」終了以降、中国共産党と中国政府の宗教政策は次第に転換していった。1979年、政府は経済改革開放政策への大転換とともに、宗教の抑圧から宗教信仰の自由、正

常な宗教活動の保護へと、その宗教政策を大きく変化させた。それにより、上海市においても仏教や道教、キリスト教、イスラム教は次第に復活していく。

『上海宗教誌』や『上海市年鑑』、張化『上海宗教通覧』等の記載によれば、「文化大革命」終了から2012年までの36年間に回復された上海市の宗教施設は「文化大革命」の中で保護された仏教の玉仏禅寺とイスラム教の小桃園清真寺の2カ所であったが¹⁾、1979年には8カ所、1998年には313カ所、2012年には419カ所に達した。また、僧侶や道士、神父、牧師など各宗教の職能者の人数も1979年の171名から1998年の1,307名、2012年の1,561名までに増えてきた。

各宗教施設の回復と宗教職能者の増加に伴い、一般信徒と都市住民の「宗教的な需要」と「宗教観」「信仰心」も徐々に復活している。

1979年から1990年代初期までの一般信徒と都市住民の宗教信仰状況については、張化『上海宗教通覧』や『上海宗教誌』などに断片的な記述がある。例えば、当時の仏教信者の活動について、張化『上海宗教通覧』には「1979年以降、春節期間、寺院に行く人数は年々上昇し、1982年延べ1万人余り、1990年延べ20万人になった」、「1987年7月、居士林は活動を復活した」等の記載がある²⁾。また、プロテスタント信者の状況については、『上海宗教誌』

* 中部大学国際関係学部中国語中国関係学科

には「1979年以降、入信した新教徒は毎年約5,6千人である」という記述がある³⁾。しかし、このような記述は少ないので、当時の詳細な状況を把握するのは困難である。

1994年4月、中国国务院宗教事務局は「宗教活動場所登記辦法」を制定した。この法規により、上海市宗教事務局は1994年4月から上海市の宗教活動場所に対して登記手続きを取っている。1996年、上海年鑑編輯部編『上海年鑑』は宗教活動場所の登記で得た各宗教施設の状況および宗教職能者数、信者数等を公表した。それ以降、『上海年鑑』は各宗教信者数および宗教活動に参加する人数などを公表している。

『上海年鑑』の公表によると、1996年から2013年までの18年間の上海市における各宗教の信者数は主に以下のようである（表1）。

表1に見られるように、上海市の各宗教の信者数は1995年の約60万人から、2004年の90万人、2012年の118万人までに増え、18年間では約58万人増加した。各宗教の信者数の変化を詳しく分析すると、各宗教の信者の増加には次のような特徴が見られる。

この間の信者増加は主に仏教と道教、プロテスタントに集中している。1995年末には仏教・道教の信徒は合わせて30万人余りであったが、2012年末に至り、仏教信徒は52.87万人、道教信徒は20.25万人に増加し、合わせて73.12万人に達した。また、プロテスタント信徒は1995年末の約12万人から、2004年の20万人、2012年末の22.36万人までに増えてきた。仏

教、道教と同じく、プロテスタント信徒数には大幅な増加があると言える。

カトリック信徒は1995年末の約14万人から2004年の15万人に増えていたが、2012年には14.02万人に減少していた。つまり、この18年間、カトリック信者数には大幅な増加が見えず、ほぼ横ばい状態である。

また、イスラム教信徒は1995年末の5万人から2012年末の8.5万人に増えてきた。仏教と道教、プロテスタントの信徒数と比べ、イスラム教信徒の増加は小幅であると言える。

上述の各宗教信者数に関連して、『上海年鑑2008』と『上海年鑑2012』『上海年鑑2013』には「各宗教施設の宗教活動に参加した1年間の人数」についての公表がある。それによれば、各宗教施設の宗教活動に参加した1年間の人数は、2007年「およそ延べ1,786.96万人」⁷⁾、2011年「およそ延べ1,919.86万人」⁸⁾、2012年「およそ延べ2,419.16万人」になった⁹⁾。つまり、2007年から2012年までの6年間では、「各宗教施設の宗教活動に参加した1年間の人数」が約632万人増加した。

また、『上海年鑑2013』は宗教毎に参加者の延べ人数を公表している。すなわち、2012年では仏教活動の参加者612.08万人、道教活動の参加者227.97万人、イスラム教活動の参加者26.56万人、カトリック活動の参加者184.12万人、プロテスタント活動の参加者1,368.43万人であった。

上述の記載によれば、2012年の仏教と道教

表1. 1995年から2012年に至る上海市の各宗教の信者数（人）

	1995年 ⁴⁾	2004年 ⁵⁾	2012年 ⁶⁾
仏 教	30万人余り	40万人	52.87万人
道 教		9万人	20.25万人
カトリック	14万人余り	15万人	14.02万人
プロテスタント	12万人余り	20万人	22.36万人
イスラム	5万人	6万人	8.5万人
合 計	約60万人	90万人	118万人

の宗教活動に参加した「1年間の延べ人数」は合わせて840.05万人に達した。また、プロテスタントの宗教活動に参加した「1年間の延べ人数」はカトリック活動の参加者より約7倍多く、1,368.43万人に達した。それらの数値も仏教と道教、プロテスタントの信者および宗教活動の参加者が大幅に増加していることを物語っている。

周知のように、『上海宗教誌』や『上海市年鑑』が発表した数字は主に中国政府が公認する5つの宗教（仏教、道教、カトリック、プロテスタント、イスラム教）についての統計であり、上海市における宗教信仰の全貌を反映したものではないが、これらの統計だけでも、目覚ましい宗教信仰回復の様子が窺われる。

(二)

前述に見られるように、中国政府の宗教政策の転換により、上海市の宗教信仰は1979年から次第に「復活」の道を辿っている。とくに政府が公認した仏教、道教、カトリック、プロテスタント、イスラム教には施設の回復、職能者と信者の増加という大きな進展が見られる。

言うまでもなく、『上海宗教誌』や『上海市年鑑』が公表している宗教施設回復と職能者・信者増加の数値は、上海市における宗教信仰の「復活」の一側面にすぎない。上海市の宗教信仰「復活」の実像を把握するために、これらの数値を参考にしながら、多くの信者と市民たちがどのような「宗教的な需要」によって宗教施設に足を運んでいるか、また人々が求めている

表2. 道教の上海城隍廟と仏教の玉仏禅寺の定例的行事

期 日	上海城隍廟の定例的行事	玉仏禅寺の定例的行事
旧暦1月1日	◎迎春焼頭香	◎喜迎新年祈願活動
旧暦1月5日	◎迎財神	◎新春財星吉日祈願活動
旧暦1月8日～14日	◎上元拝太歳保平安	◎拝太歳
旧暦1月9日		・供仏齋天祈福法会
旧暦1月15日	◎上元節	◎元宵節・拝太歳吉祥法会
旧暦2月3日	・文昌帝君華誕日	
旧暦2月8日		・釈迦牟尼仏出家法会
旧暦2月15日	・太上老君聖誕	・釈迦牟尼仏涅槃法会
旧暦2月19日	◎慈航真人聖誕日	◎観音菩薩聖誕法会
旧暦2月21日	・城隍華誕日	
3月末～4月4日清明日	◎清明節普度黄籙大齋三日	◎清明衆姓水陸法会（七日）
旧暦3月28日	・城隍夫人華誕日	
旧暦4月1日～4日		・千仏洪名宝懺法会（四日）
旧暦4月4日		・文殊菩薩聖誕点灯祈慧法会
旧暦4月8日		・浴仏伝灯法会
旧暦5月13日	・閔聖帝君華誕日	
旧暦5月18日	・張天師華誕日	
旧暦6月19日	◎慈航真人成道日	◎観音菩薩成道法会
旧暦7月15日	◎中元節普度打醮三日	◎盂蘭盆会
旧暦7月29日、30日		・地藏法会
旧暦8月14日		・拜月法会
旧暦9月9日	・斗姆元君聖誕日	
旧暦9月19日	◎慈航真人出家日	◎観音菩薩出家法会
旧暦9月29日		・薬師仏聖誕法会
旧暦10月15日	◎下元節謝太歳三日	
12月15日～22日冬至日	◎冬令普度黄籙大齋三日	◎冬至衆姓水陸法会（七日）
旧暦12月8日		・臘八節・釈迦牟尼成道日
旧暦12月15日		◎謝太歳吉祥大法会

表3. 仏教の龍華寺と雲翔寺の定例的行事と法会

期 日	龍華寺の定例的行事	雲翔寺の定例的行事
旧暦1月1日	・新年辞旧迎新法会	・辞旧歲迎新春法会
旧暦1月5日	・迎財神皈依团拜	
旧暦1月6日～8日		・供仏齋天法会（法華法会）
旧暦1月8日～15日	・齋天薬師法会	
旧暦2月19日		・放生法会
3月末～4月4日清明日	・清明水陸法会	・追思報恩法会（清明法会）
旧暦4月4日	・皈依法会（文殊菩薩聖誕）	・文殊啓智法会（文殊法会）
旧暦4月8日	・浴仏節（仏誕節）	
旧暦4月8日～26日		・感恩点灯法会（華嚴法会）
旧暦6月8日～14日	・浄七法会（明暘法主記念日）	
旧暦6月19日	・觀世音菩薩成道記念法会	・觀音慈悲法会（觀音法会）
旧暦7月13日～15日		・仏子母親節（盂蘭盆会）
旧暦7月15日	・盂蘭盆法会	
旧暦7月29日、30日	・地藏法会	・地藏法会
旧暦9月12日～18日		・衆姓万縁水陸法会
旧暦9月19日		・觀音大悲法会（觀音法会）
12月15日～22日冬至日	・冬至水陸法会	・冬至弥陀法会
旧暦12月8日	・臘八節（仏成道）	
旧暦12月14日～16日	・蓮池海会	
旧暦12月23日		・蓮池海会（老祖宗饗食年夜飯）

表4. 道教の東嶽廟と青浦城隍廟の定例的行事と法会

期 日	東嶽廟	青浦城隍廟
旧暦1月1日	・迎新春、焼頭香	
旧暦1月5日	・迎財神、接財神	
旧暦1月8日		・拜太歳
旧暦1月10日から	・拜太歳	
旧暦1月20日	・楊大神開印大吉	
旧暦2月2日	・土地正神聖誕	
旧暦2月3日		・文昌学業醮（一日）
旧暦2月19日	・觀音大士聖誕	
旧暦3月	・清明普度法会（三日）	・清明超度（一日）
旧暦3月28日	・東嶽聖帝、楊大神聖誕祈福法会（三日）	
旧暦4月14日		・純陽平安醮（車醮）（一日）
旧暦4月18日	・碧霞元君聖誕	
旧暦6月16日	・炳靈公聖誕	
旧暦6月19日	・觀音成道日	
旧暦6月24日	・施大神聖誕酬恩法会	
旧暦6月25日～27日		・城隍聖誕賀寿法会（三日）
旧暦7月14日		・中元普度法会（一日）
旧暦7月15日	・中元節、府城隍聖誕	
旧暦7月30日		・土地太平醮（一日）
旧暦9月9日	・楊大神、楊夫人聖誕祈福法会	
旧暦9月19日	・觀音出家日	
旧暦10月26日		・予修血湖經（一日）
旧暦11月冬至日	・冬至普度法会（三日）	・冬至超度（一日）
旧暦12月20日	・楊大神封印吉祥	
旧暦12月24日	・謝太歳	

る¹⁰⁾。上海地区には他の地区と同じく、多くの縁日が古くから形成され、「歳時」（年中行事）とされてきた。清朝乾隆49年（1784年）に刊行された『上海県誌』と、清朝同治10年（1871年）に刊行された『上海県誌』の記載によれば、清代において上海地区の「歳時」（年中行事）には主に以下のような縁日があった（表5）¹¹⁾。

表5に見られるように、清朝乾隆49年（1784年）に刊行された『上海県誌』は主に重要な縁日を選び、観音大士誕生日や釈迦誕生日など10項目を記載した。その後、清朝同治10年に（1871年）刊行した『上海県誌』はそれ以前より詳しく、約21項目の縁日を記載した。それらの縁日には主に神仏の誕生日や降臨日、成道日などがある。当時、人々はそれらの縁日によって仏教寺院と道教の宮観に参拝し、神仏に線香をたむけた。仏教寺院と道教の宮観は人々の「宗教的需要」に応じて恒例的に「浴仏会」や「盂蘭盆会」などの行事と法会を行った¹²⁾。

要するに、上海市の仏教寺院と道教施設は現

在でも伝統的な慣習に従い、多くの縁日に様々な定例的行事と法会を行っている¹³⁾。この現象から、縁日に対する人々の「宗教的需要」が「文化大革命」のような大規模な政治変革を経てもなお失われる事なく持続していることが窺われる（写真2）。

（三）

ここでは上海市住民たちの多様な「宗教的ニーズ」を把握するために、仏教寺院と道教施設の重要な定例的行事と法会を選んで、それらの定例的行事と法会の具体的な内容や開催の目的、特徴などを詳しく分析する。

①旧暦1月1日の「迎新春焼頭香」や「喜迎新年祈願活動」等

旧暦大晦日夜と春節（正月元日）に新年を迎えて福を祈る行事は、仏教寺院と道教施設の定例的行事と法会に最も重要な位置を占めている。

仏教の玉仏禅寺は主に「迎新春慈善晚会」や

表5. 清代上海地区の「歳時」における縁日

期日（旧暦）	『上海県誌』（1784年）	『上海県誌』（1871年）
1月5日		接財神
1月15日		元夕日、接電神
1月27日		三官誕
2月19日	観音大士生日	観音大士生日
3月23日		天后誕
3月28日		城隍夫人誕
4月8日	釈迦生日	大仏誕（釈迦生日）
4月14日		呂祖師誕
5月13日	関帝生日	関帝生日
6月19日	観音大士成道日	観音大士成道日
6月23日		火神生日
6月24日		雷神誕
7月15日	中元節、盂蘭盆会	中元節、盂蘭盆会
7月27日		三官誕
7月30日	地藏開眼	地藏王開眼
8月18日	潮頭生日	潮生日
9月19日		観音大士出家日
10月27日		三官誕
12月8日	臘八粥	臘八粥
12月24日	送電神朝天	電神朝天
12月25日	諸仏下降日	諸仏下降日

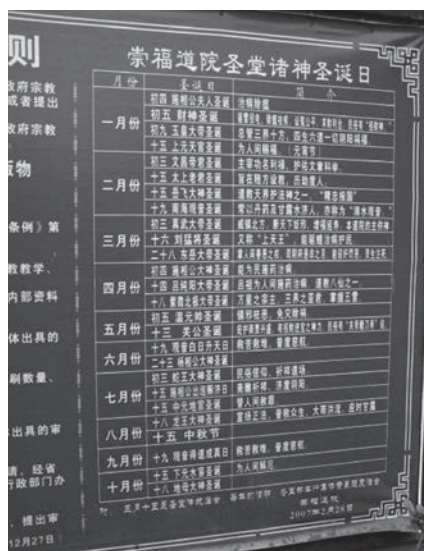


写真2. 崇福道院聖堂の諸神聖誕日の告示

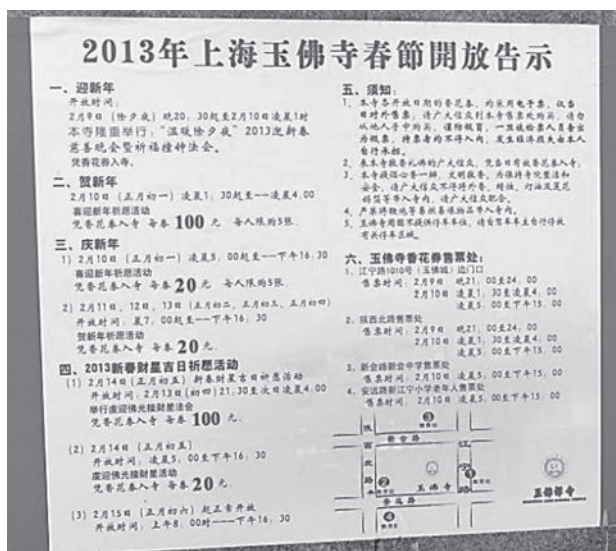


写真3. 玉仏禪寺の「2013年上海玉仏寺春節開放告示」

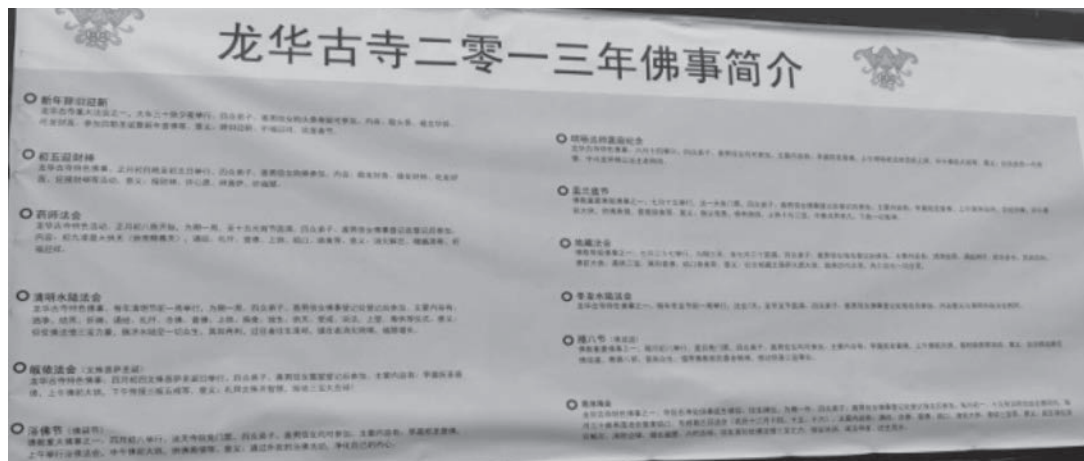


写真4. 「龍華古寺2013年佛事簡介」

「祈福撞鐘法会」、「祈福普仏法会」、「喜迎新年祈願活動」などが行われる。大晦日夜から始まる「迎春慈善晚会」は、玉仏禪寺梵楽団などが上演する新年音楽会である。この音楽会は寄付金や入場料などの収益を上海市慈善団体等に寄付するので、「慈善晚会」と呼ばれている。玉仏禪寺はこの音楽会の収入を公表しなかったが、寺院が毎年、この音楽会の収入から100万人民币を上海市慈善団体等に寄付したことによって、膨大な収入があったと推測できる¹⁴⁾。

「迎春慈善晚会」の後、「祈福撞鐘法会」（福を祈願し鐘を撞く法会）と「祈福普仏法会」（福

を祈る普仏法会）が行われる。また、正月元日1時30分から始まる「喜迎新年祈願活動」は「焼頭香」とも呼ばれ、人々が年明けから初めて寺院に参拝し、新年最初の線香を手向ける行事である（写真3）。

ほかの仏教寺院でも玉仏禪寺と同じく、様々な新年祈願行事を行っている。例えば、仏教の龍華寺は主に「敬頭香（新年最初の線香をたむける）」や「撞龍華鐘（龍華寺の鐘を撞く）」、「喫癸財麵（金運を招く麵を喰う）」などの行事、および普供、祝聖普仏、丈室の新年祝賀などの儀礼が行われる。龍華寺本殿の壁に掲示してい

る「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、これらの行事と儀礼は主に「辞旧迎新、祈福迎祥、歡度春節（旧年を送り新年を迎え、福を祈り吉祥を迎え、春節を楽しく過ごす）」という重要な意義を持っている（写真4）¹⁵⁾。

道教の上海城隍廟は大晦日夜から「祝願祈福儀式」や「迎新春焼頭香」、「行年平安灯」等が行われる。「祝願祈福儀式」は人々の願望を書き示した「祈福文疏」を天庭の諸神に届ける儀式である。「迎新春焼頭香」は仏教寺院の「焼頭香」と同じく、新年最初の線香をたむける行事である。上海城隍廟の本殿入り口の両側に貼っている「迎新春拜太歳」告示によれば、人々が新年の「迎新春焼頭香」行事で線香をたむけて祈願すると、この祈願は必ず天上の諸神に届き、諸神の加護によって願いが叶うとされている¹⁶⁾。

また、「行年平安灯」は大晦日夜から正月18日までの新年期間に於いて祈願の灯（提灯）を上海城隍廟に掲げる行事で、大晦日夜と最終日にそれぞれ「燃灯礼儀」と「送灯礼儀」が行われる。上海城隍廟の「迎新春拜太歳」告示によれば、その「行年平安灯」は「照耀天地、引領信衆、礼告上蒼、獲得福報」（天地に照り輝き、信衆を引き連れて天の神々に礼拝し、福の報いを得る）という重要な力を持っている（写真5）¹⁷⁾。

鄭土有主編『中国民俗大系・上海民俗』等の記載によれば、上海地区には正月1日、「焼頭香

（新年最初の線香をたむける）」と「焼十廟香（多くの寺廟に参拝し線香をたむける）」などの伝統的な慣習があるため、春節期間、各寺廟の参拝は非常に盛んである¹⁸⁾。とくに、1980年代後期から寺廟の「焼頭香」活動は再び盛んになり、大勢の人が大晦日夜から、龍華寺や静安寺、玉仏禅寺などに殺到し、先を争って線香をたむける。『上海宗教誌』の記載によれば、1998年大晦日深夜、龍華寺と静安寺、玉仏禅寺で「焼頭香」の参加者は総勢約18,200人に達し、その内訳は、玉仏禅寺3,200人、龍華寺12,000人、静安寺3,000人であった¹⁹⁾。

また、「春節期間、仏教寺院と道教道観に行き焼香した人数」について、『上海年鑑』には詳細な記載がある。例えば、『上海年鑑1999年』には1998年の「春節期間、仏教寺院に出向き焼香した人数は延べ45.5万人、道教の道観において焼香した人数は延べ11万人である」という記述がある²⁰⁾。『上海年鑑2002年』には2001年の「春節期間、仏教寺院に出向き焼香した人数は延べ65万人、道観で焼香した人数はおおよそ延べ11万人である」という記述がある²¹⁾。それらの記述から、その盛んな活動の様子がうかがわれる（写真6）。

②旧暦正月5日の「迎財神」や「新春財星吉日祈願活動」等

財神聖誕日の旧暦正月5日に財神を迎えて福



写真5. 上海城隍廟の本殿入り口の両側に貼っている「迎新春拜太歳」告示



写真6. 龍華寺の「新春焼頭香」活動に参加する人々

を祈る行事。道教の上海城隍廟は正月5日の子時（4日深夜11時～5日1時）に「接財神儀式」が行われる。その儀式では先ず、財神像などに魂を迎え入れる開眼儀式が行われる。その後、人々は昨年の財神像などを燃やし、新たに財神像や平安符、鎮宅符を迎えて家に据え祀る。上海城隍廟の「迎春春拜太歳」告示によれば、財神は天下の財源を管理する神霊であるので、財神聖誕日に「接財神儀式」に参加し、廟から財神像を迎えて家に据え祀ると、財神の加護を受けることができる（写真7）²²⁾。

仏教玉仏禪寺の「新春財星吉日祈願活動」には主に、正月4日夜22時から翌日4時までの「新春納福迎財星梵楽晩会」と「撞吉祥平安鐘」「迎財星祈福法会」および5日5時から16時30分までの「虔迎仏光接財星活動」がある。智遠居士「玉仏禪寺挙行2014年新春納福迎財星梵楽晩会」によれば、財神は財帛星君とも呼ばれ、天上と人間財福の神である。財神に対する信仰は昔から仏教の儀式に溶け込んできたので、現在、多くの仏教寺院には信者の「需要」に応じて財神殿が設けられている。玉仏禪寺も信者の要求に応じて2006年から「迎財星」活動を開催している²³⁾。

また、仏教龍華寺の「迎財神皈依団拝」には主に「敬発財香（金運を招く線香をたむける）」や「撞発財鐘（金運を招く鐘を撞く）」、「喫発

財麵（金運を招く麵を喰う）」、財神迎え、丈室での信者祝賀会などが行われる。この行事の意義について、「龍華古寺2013年仏事簡介」には「接財神、許心願、拜菩薩、祈福慧」（財神を迎え心願を立て、菩薩に礼拝し福德と知恵を祈る）という説明がある。

上海地区の民間には旧暦正月5日の財神生誕日に「財神」を迎え、福を祈る慣習がある。例えば、『嘉定県統誌』（民国19年刊行）には「正月4日夜、商店はみな財神を祀り、門前に商号灯を掛ける。神送りのとき、爆竹を鳴らして神にお供えする。これらの行事が接財神と呼ばれる」という記載がある²⁴⁾。1980年代以降、市場経済化の発展につれて、「迎財神」の活動は再び盛んになった。上海市の道教施設と仏教寺院はこれらの慣習を取り込んで様々な「迎財神」の行事を行っている。

『川沙県統誌』の記載によれば、1980年代以降、正月5日の「迎財神」は正月元日の「焼頭香」と同じく、人々に大いに人気がある。参拝者の願いは様々であるが、多くの人々は「平安」を求め正月元日の「焼頭香」に、あるいは「致富（金持ちになる）」のために正月5日の「迎財神」に参加している²⁵⁾。

③旧暦1月8日～1月14日の「拜太歳」、旧暦10月15日の「下元節謝太歳」

「拜太歳」は旧暦正月8日から正月14日まで太歳神の保護を祈る行事である。

上海城隍廟・香港蓬瀛仙館編著『拜太歳』によれば、太歳神は主に人の「生死寿夭」「年の運勢」などを司る神である。旧暦干支紀年法は60年を周期としている。太歳神は年毎に異なるため、一周期に60人の太歳神がいる²⁶⁾。

また、人は生まれた年から、毎年2人の太歳神に守られているとされる。1人は「本命太歳」と呼ばれ、生まれ年の太歳神である。その太歳神は一生に伴い、「吉凶禍福」「生死寿夭」「流



写真7. 上海城隍廟の正月初五「迎財神」に参加する人々

年運勢」を司る。もう1人は「値年太歳」あるいは「当年太歳」「遊行太歳」と呼ばれ、年毎の太歳神である。故に、人々は毎年「本命太歳」と「値年太歳」に祈願し、太歳神の保護を受け、その年と一生の平安や健康、吉祥、運勢の順調などのご利益が得られる。

上海城隍廟は人々の「宗教的需要」に応じて、2000年から毎年正月に「拝太歳」（拝太歳祈福法会）を行っている。その「拝太歳」には主に「誦唱礼斗誥」や「奉請太歳像神位」、「本命灯儀」などの儀式がある。また、太歳神の保護に感謝し、上海城隍廟は旧暦10月15日に「下元節謝太歳」を行う。その「下元節謝太歳」には主に「誦念懺文」や「進表科儀」、「焚化文疏紙錢」などの儀式がある（写真8、9）。

近年、「拝太歳」信仰の普及につれて、仏教寺院も「拝太歳」「謝太歳」を定例的行事として行っている。例えば、玉仏禅寺は2014年から「拝太歳吉祥法会」と「謝太歳吉祥大法会」を催した²⁷⁾。

④旧暦正月9日の「供仏齋天祈福法会」や「齋天薬師法会」（薬師法会）等

仏教護法神の帝釈尊天の加護に感謝する法会である。『上海通誌』等の記載によれば、上海地区の民間では仏教護法神の帝釈尊天を天公（玉皇大帝）として信仰されている。旧暦正月

9日は天公（玉皇大帝）の生誕日であり、一般庶民には玉皇閣などの寺廟に参拝し天公を祀る慣習があった²⁸⁾。現在、上海市の各寺院はその慣習に沿って様々な「齋天」法会を行う。それには玉仏禅寺の「新春供仏齋天祈福大法会」や龍華寺の「齋天薬師法会」、雲翔寺の「供仏齋天法会」（法華法会）、報国寺の「供天法会」などがある。

龍華寺では正月8日から正月15日までの1週間にわたって「齋天薬師法会」（薬師法会）が行われる。その法会には主に大供天（供帝釈尊天）や誦薬師経、礼懺、普仏、上供、焰口、施食等の儀礼がある。「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、その法会は主に「消災解厄、增福添寿、祈福迎祥（息災、厄払い、福を増やし寿命を延ばし、福を祈り吉祥を迎える）」などの意義を持つとされ「迎春祈福迎祥薬師法会」とも呼ばれる（写真10）。

⑤旧暦2月19日、6月19日、9月19日の「観音法会」

観音菩薩の誕生日（旧暦2月19日）と成道日（旧暦6月19日）、出家日（旧暦9月19日）に行われる法会である。

上海地区の人々は昔から観音菩薩を篤く信仰している。『上海県誌』等の記載によれば、明清時代の上海地区には観音大士の誕生日（旧暦



写真8. 上海城隍廟の「拝太歳」儀式



写真9. 上海城隍廟の本殿入り口に貼っている「下元節謝太歳」告示

2月19日)と成道日(旧暦6月19日)、出家日(旧暦9月19日)に沈香閣や同善堂などの寺廟に参詣し、観音大士に線香を手向ける行事が盛んであった²⁹⁾。また、多くの女性信徒には、観音菩薩に敬虔の意を示すため、2月・6月・9月の朔日から19日まで精進料理を食べる風習があった。その精進潔斎は「観音素」と呼ばれた³⁰⁾。

1980年代以降、上海市の仏教寺院と道教施設は民衆の観音信仰によって観音菩薩聖誕日と成道日、出家日に様々な行事と法会を行っている。例えば、仏教の沈香閣では毎年旧暦2月19日・6月19日・9月19日に「延生普仏」法会が行われている(写真11)。仏教の真如寺では毎年旧暦6月と9月の13日から19日まで「観音仏七」法会が催されている。その「観音仏七」法会には主に「拜大悲懺」や「蒙山施食」、「拜法華懺」などの儀式がある。

また、道教の上海城隍廟には慈航真人(観音菩薩)を祀る慈航殿が設けられ、毎年「慈航真

人聖誕日法事」「慈航真人成道日法事」「慈航真人出家日法事」が行われている(写真12)。

⑥清明節の「清明衆姓水陸法会」や「清明普度黄籙大醮」等

『上海通誌』等の記載によれば、上海地区の年中行事には「四時六節」と呼ばれる祖先・死者祭祀の祭日がある。「四時六節」は、春、夏、秋、冬の四季(四時)における清明節、夏至、旧暦7月15日の中元節、旧暦の十月朔(朔日)、冬至日、除夕(大晦日)という6つの祭日(六節)を指す。人々はその祭日に様々な「祭祖」活動(祖先や死者を祀る)を行っている。とくに、清明節の「祭祖」はもっとも盛んである。清明節の前後、人々はまず家で祖先や死者を祀り、その後墓参りをする³¹⁾。

1980年代以降、清明節の「祭祖」は再び盛んになり、清明日に墓参りする市民が数百万人に達した。現在、上海市の道教施設と仏教寺院はその「祭祖」慣習に沿って清明節の前後に「清明普度黄籙大醮(上海城隍廟等)」や「清明普度大法会(太清宮)」、「清明衆姓水陸法会(玉仏禅寺、報国寺等)」、「清明水陸法会(龍華寺等)」、「追思報恩法会(雲翔寺)」、「清明仏七道場(沈香閣)」、「清明法会(静安寺)」などを行っている。

仏教寺院の水陸法会は「法界聖凡冥陽兩利水

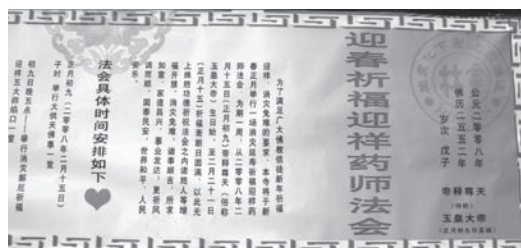


写真10. 龍華寺の「迎春祈福迎祥薬師法会」の告示



写真11. 沈香閣の観音菩薩出家日「延生普仏」法会に参加する信徒たち



写真12. 上海城隍廟の「慈航真人出家日法事」

陸普渡大齋勝会道場」の略称で、一般的には7日間、長い場合は49日間にわたって百数十人の僧侶が参加する最も大規模な仏事である。また、水、陸、天という三界では水と陸での苦難が最も厳しいものとされ、水陸法会と呼ばれている。2013年の龍華寺「清明水陸法会」（4月2日～4月8日）には主に洒浄や結界、祈祷、誦経、礼懺、念仏、普仏、上供、施食、放生、供天、受戒、説法、上堂、齋供などの儀式が行われた（写真13）。「清明水陸法会」の意義について、「龍華古寺2013年仏事簡介」には次のような説明がある。

「仏・法・僧の三宝の力に頼り、水・陸・空における全ての衆生を救済する。冥陽の両方にはご利益があり、死者は極楽浄土に往生し、健在者は息災、障害を取り除き、福德と知恵を増やす」³²⁾。

⑦旧暦4月4日（文殊菩薩聖誕日）の「文殊菩薩聖誕点灯祈慧法会」や「皈依法会」など

文殊菩薩生誕日の旧暦4月4日に行われる法会である。玉仏禅寺は毎年、文殊菩薩生誕日に文殊菩薩の加護を祈願するために「文殊菩薩聖誕点灯祈慧法会」を行う。智遠居士「上海玉仏禅寺举行2014年文殊菩薩聖誕点灯祈慧法会」によれば、文殊菩薩は才徳が抜群に優れ、聡明

智慧を体現する菩薩である。この法会で文殊菩薩に祈願すると、文殊菩薩の加護を受け、早く智慧本性の心灯を点すことができるとされる³³⁾。

また、龍華寺が文殊菩薩生誕日に催す「皈依法会」には、主に朝の「祝聖普仏」と午前の「仏前大供」、午後の「伝授三皈五戒」の儀礼がある。「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、その「皈依法会」は「文殊菩薩を礼拝し智慧を獲得し、三宝に帰依し大吉祥を得る」という意義がある³⁴⁾。

周知のように、1980年代以降、中国の大学は毎年6月から7月に「全国大学統一入試」が行われる。多くの受験生は受験合格のため、仏教寺院や道教施設に参詣し、合格祈願をしている。仏教寺院はこのような「需要」に応え、恒例的に文殊菩薩聖誕日の「祈慧法会」（智慧を祈願する法会）を行っている。

旧暦2月3日の「文昌祈願法会」

上海の道教施設は文殊菩薩聖誕日に行事と法会を行わないが、人々の受験合格の「需要」に応じて、旧暦2月3日の文昌帝君華誕日に様々な「文昌祈願法会」が行われている。例えば、上海城隍廟はその日に「文昌聖誕祈福法会」を催している。道士たちは文昌殿で「祝願」や「通疏」等の儀式を行い、受験生の「拝文昌、興文運、開智慧、考高分（文昌を祀り、文運を増やし、智慧を獲得し、高い点数を得る）」を祈願しながら、参加者に「文昌智慧筆」を贈呈する。上海城隍廟の「文昌祈願法会縁起」によれば、文昌帝君は正直無私で、地位が高く職司も極めて重要であり、世の読書人に尊敬されている。とくに、試験や職位昇進の折り、善男善女は文昌帝君を祀り、受験合格や昇進順調、事業成功を祈願する。故に、世の中には「想求財拝財神、要成才拝文昌（財を求めたい場合、財神を拝み、有用な人物になりたい場合、文昌を拝む）」という諺がある³⁵⁾。



写真13. 龍華寺の「法界聖凡冥陽兩利水陸普度大齋勝会」

⑧旧暦4月8日の「浴仏節」（仏誕節）

旧暦4月8日の釈尊誕生を祝う行事である。上海市の仏教寺院はその日に様々な「浴仏法会」を行う。例えば、玉仏禅寺はその日に「浴仏法会」、「仏供」、「普仏」、「梵楽晚会」、「伝灯法会」などの行事が行われる。また、龍華寺は主に朝の「祝聖普仏」や午前の「浴仏法会」、「仏前大供」、「供仏齋僧」等が行われる。「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、「浴仏節」は主に「自己の内心を浄化する」という重要な意義を持っている³⁶⁾。

『上海県誌』や『法華郷誌』等の記載によれば、清朝、民国時代、上海地区の人々は各仏教寺院が釈迦生誕日（旧暦4月8日）に行う「浴仏法会」に参拝しながら、寺院の前で開催する「廟会（縁日の市）」で農産物などを購入した³⁷⁾。そのような「浴仏法会」と「廟会」がつながる慣習は1950年代まで残っていた³⁸⁾。しかし、「文化大革命」終了後、各寺院の「浴仏法会」は次第に復活したが、「廟会」の開催回復は見られなかった。

⑨旧暦7月15日中元節の「盂蘭盆法会」や「中元普度黄籙大醮」等

すでに指摘したように、旧暦7月15日の中元節は「七月半」とも呼ばれ、清明節や冬至日等と同じく、祖先や死者を祀る重要な祭日である。『上海通誌』の記載によれば、「中元節」はちょうど農産物の端境期に当たり、人々が主に菜食を供え、祖先や死者を祀るので、俗に「苦惱七月半」とも称している。上海地区の人々はその日、家で酒や料理を供えて祖先や死者を祀り、夜道路で供え物を並べ、紙銭を燃やし、亡魂等を祀る。また、家には会食の席を設け、親族や友人を招いてご馳走する。とくに、忌中の家は「陰間（あの世）」にいる死者の贖罪のために、僧侶や道士を招いて「放焰口」などの法会を行い、近隣に赤飯を配る³⁹⁾。

1980年代以降、上海地区の民間には伝統的

な中元節の「祭祖」活動が次第に復活しているので、仏教寺院と道教施設は人々の「宗教的需要」に応じて中元節に「盂蘭盆法会」や「中元普度黄籙大醮」などを行っている（写真14、15）。例えば、龍華寺の「盂蘭盆会」には主に祝聖普仏や洒浄加持、誦盂蘭盆經、仏前大供、供仏齋僧、普度施食などの儀礼がある。「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、「盂蘭盆法会」は仏教の重要な仏事で、主に「父母の恩に報い、布施・供養の徳を積み、十方三宝と法界聖凡、一切鬼神を供養する」という重要な意義を持っている⁴⁰⁾。

上海城隍廟は旧暦7月13日から7月15までの3日間にわたって「中元普度黄籙大醮」を行う。「中元普度黄籙大醮」は「中元普度消災弭禍平安大醮」とも呼ばれ、主に死者、幽魂などを供養し、災禍をなくす法事である。3日間の法事内容は主に以下のようなものである。

旧暦7月13日：消災解厄経懺、発符、上供、召孤魂

旧暦7月14日：消災解厄経懺、浄壇、玉皇表、玄門晚課

旧暦7月15日：消災解厄経懺、火司保安朝、上供、平安灯籠開光、煉度（放焰口）

2010年8月の上海城隍廟「中元普度消災弭禍平安大醮縁起」によれば、「中元普度消災弭禍平安大醮」を行う理由は主に以下のようなものである。

「国運が栄え、日ごと月ごとに新しくなる。民衆は安康を望み、陰陽調和を切望するが、天災人災は今なお絶え間ない。一部の地区の民衆は干ばつ、暴雨、洪水、土石流などの災害に見舞われた。また、鉅山事故や交通事故、火災などの人為的な災禍は次から次へと発生している。多くの罹災、無念の死を遂げた亡魂は流離って身を落ちつける所がない。済度がなければ、陰陽の隔絶、存亡の悲慟を解消

するのが難しい」⁴¹⁾。

要するに、上海城隍廟は上述の理由によって「中元普度消災弭禍平安大醮」を行い、「和諧陰陽、消災弭禍、風調雨順、国泰民安、超度亡故、濟助厄困、陰陽兩利、合境平安」（陰陽の調和、災禍を除き、気候の順調、国の安定、民の安穩、亡魂を済度し、貧困を救済し、陰陽兩利、全境平安）を祈願する（写真16、17）。

⑩旧暦7月30日あるいは7月29日の「地蔵法会」

旧暦7月30日は地蔵菩薩の生誕日である。『上海通誌』等の記載によれば、旧暦7月30日の地蔵菩薩生誕日は「晦日節」、「地蔵開眼」とも呼ばれる。上海地区の人々はその日、街や住宅の門前、下水道などに「地香（線香）」と「地灯（蠟燭）」を点し、また地面あるいは低い腰

掛けに野菜や果物、花、稲穂などを並べ、地蔵菩薩を祀る。この祭祀活動は「焼地蔵香」と呼ばれる⁴²⁾。また、仏教寺院はその日、紙で「白蓮船」を作り、その船に紙銭や米、豆、麦などを積む。夜、僧侶たちは法事をしながら、この「白蓮船」を燃やすので、この法会は「放白蓮船」とも呼ばれる⁴³⁾。

1980年代以降、上海市の仏教寺院は人々の「死者供養」のニーズに応じて、様々な「地蔵法会」を催している。例えば2013年の場合、仏教寺院の「地蔵法会」は主に次のようである。

玉仏禅寺 「地蔵菩薩聖誕記念法会」

旧暦7月29日

雲翔寺 「地蔵法会」

旧暦7月29日

龍華寺 「地蔵法会」

旧暦7月27日から7月29日までの3日間



写真14. 静安寺の「七月十五盂蘭盆法会」



写真16. 上海城隍廟の本殿入り口に貼っている中元行事の告示



写真15. 龍華寺の「盂蘭盆会」で紙銭を燃やす人々



写真17. 上海城隍廟の「中元普度黃籙大醮」の祭壇

静安寺 「地藏法会」

旧暦7月23日から7月29日までの1週間
西林禅寺 「地藏報恩水陸法会」

旧暦7月29日から8月6日までの1週間

上述の玉仏禅寺の「地藏菩薩聖誕記念法会」には主に午前の「地藏菩薩本願経」、午後の「地藏王菩薩祝聖普仏法会」、夜の「五大師焰口」等の儀礼がある。また、龍華寺の「地藏法会」には主に「誦地藏経」や「礼拝地藏懺」、「仏前大供」、「冥陽普仏」、「焰口施食」等の儀礼がある(写真18)。「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、「地藏法会」は主に「地藏菩薩の大願大慈を記念し、歴代の宗親や先人、新魂、一切靈魂を済度する」とされる⁴⁴⁾。

⑪旧暦11月冬至日(西暦12月22日)の「冬至水陸法会」など

『上海通誌』等の記載によれば、冬至は清明節や中元節等と同じく、祖先と死者を祭祀する重要な祭日である。その日、上海地区の人々は家で料理や餅、団子、酒などを供えて祖先と死者を祀る。また家族が集まって墓参りをする。上海地区には冬至日に「落葬儀式(棺を墓に埋葬する)」を行う慣習もある⁴⁵⁾。

1980年代以降、伝統的な冬至の祭祖活動は再び盛んになり、墓参りする市民が清明節と同

じく、数百万人に達した。現在、上海市の仏教寺院と道教施設はその「祭祖」慣習に沿って冬至日の前後に「冬至衆姓水陸法会(玉仏禅寺等)」や「冬至弥陀法会(雲翔寺)」、「冬至仏七道場(沈香閣)」、「冬至水陸法会(龍華寺、西林禅寺等)」、「冬至慈悲梁皇宝懺法会(東林寺)」、「冬至祭祖超度法会(松隠禅寺)」、「冬至普度黄籙大醮(上海城隍廟)」、「冬至普度法会(東嶽廟)」などを行っている(写真19)。

仏教龍華寺は12月22日冬至から12月28日までの1週間にわたって「冬至水陸法会」を行う。「冬至水陸法会」には内壇、大壇、法華壇、浄土壇、諸経壇、楞嚴壇、華嚴壇という七つの壇場が設けられる。龍華寺「水陸法会紹介・冬至水陸法会予告」(2013年)によれば、各壇場で行われる法事は主に以下のようである⁴⁶⁾。

内 壇：結界洒浄、発符懸幡、請上堂、供上堂、告赦、請下堂、供下堂、円満供、円満香、円満送聖など

大 壇：拝「梁皇宝懺」24部、諷誦「薬師経」「金剛経」各60部、「梵網経」24部、施放「瑜珈焰口」、齋天、普仏など

法華壇：諷誦「妙法蓮華経」24部

浄土壇：諷誦「阿弥陀経」、念仏、繞仏、拝仏など

諸経壇：諷誦「無量寿経」「観無量寿仏経」「金光明経」「大方広仏圓覚経」各24部



写真18. 龍華寺の「地藏法会」



写真19. 玉仏禅寺の「冬至衆姓水陸法会」

楞嚴壇：誦誦「大仏頂首楞嚴經」24部

華嚴壇：默誦「大方広仏華嚴經」2部

要するに、龍華寺の「冬至水陸法会」は各壇場での施食や妙供等の法事によって「諸仏菩薩」「一切賢聖」を祭祀し、「法界一切有情」を救済し、「九幽十冥、一切受苦衆生」を済度する（写真20）⁴⁷⁾。

道教の上海城隍廟は冬至日の前後に3日間の「冬至普度黄籙大醮」を催している。「上海城隍廟冬至普度」告示によれば、冬至は冬節とも呼ばれ、1年に昼間の長さが最も短い日であると同時に、1年に陰気が最も強い日でもあるので、鬼魂たちはこの機会により地府から出て、あちこち饗食を求める。故に、道教の道観はその日に超度道場を設け、全国各地における無縁の孤魂野鬼を祭祀し、彼らに飽食を与えて仙界に往生させる。信者たちはその法会に参加すると、次のような功德が得られる。

一、祖先を済度し、地獄での苦しみをまぬがれる。また、「冥資」（紙銭）を燃やすことによって親孝行を尽くすことができる。

二、全国各地の亡魂厲鬼を済度すると同時に、自分の生活環境の安定をも保つ（写真21）⁴⁸⁾。

⑫旧暦2013年12月8日の「臘八節」（仏成道）

旧暦12月（臘月）8日は釈迦が悟りを開いた成道日である。鄭土有主編『中国民俗大系・

上海民俗』等の記載によれば、清朝、民国時代、上海地区の仏教寺院には旧暦12月8日の成道日、僧侶、尼が信者と布施者の家に訪ねて、米や栗、棗、ハシバミ等で煮炊きした「臘八粥」を配る行事があった。その影響を受け、上海地区の民間には、旧暦12月7日深夜から「臘八粥」を作り、まず祖先や竈などを祀り、その後家族全員が集まり「臘八粥」を食べ、また翌日午前中にその粥を親戚や友達に贈るという慣習が形成された⁴⁹⁾。

現在、各仏教寺院はその慣習に沿って旧暦12月8日に「臘八節」の行事を毎年行っている。例えば、龍華寺はその日、祝聖普仏や仏前大供、普利施粥などの行事を行う。「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、「臘八節」の行事には主に「釈迦の成道を記念し、臘八粥を煮炊きし、衆生を済度する」という重要な意義がある⁵⁰⁾。

⑬旧暦12月14日～旧暦12月16日の「蓮池海会」

旧暦の年末に祖先と死者を供養する法会である。龍華寺の「蓮池海会」には主に誦経や念仏、普仏、焰口、仏前大供、齋供三宝、禄位・蓮位送り等の儀礼が行われる。

龍華寺の位牌堂では往生位牌と延生禄位（1年限りの紙位牌）を供養している。往生位牌は一般的に黄色い紙で作られ、位牌堂の壁に貼られている。その場所が「蓮池海会」と呼ばれる。



写真20. 龍華寺の「水陸法会介绍・冬至水陸法会予告」(2013年)

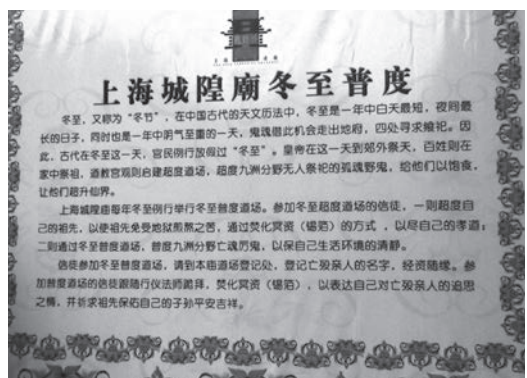


写真21. 上海城隍廟の「冬至普度」告示

また、赤い紙で作られた延生禄位を貼っている場所に対しては、「福寿康寧」と呼ばれている。龍華寺は毎年約1万件の紙位牌の申し込みを受けつけ、そのうち往生位牌は約6,000件、延生禄位は約4,000件である（写真22、23）。

「龍華古寺2013年仏事簡介」によれば、位牌堂に供養している往生位牌と延生禄位に対して、僧侶たちは毎月1日と15日に念経、念仏の儀式、30日夜に普度焰口の儀式を行う。また、年末には上述の祖先と死者を供養する法会を3日間行う⁵¹⁾。それらの儀式と法会には主に次のような重要な意義がある。

「延生禄位は息災、厄払い、業苦を取り除き、福と智慧を増やし、毎日吉祥である。往生位牌は仏・法・僧の三宝の力により宿業を氷解し、法を聞いて済度を得、西方に往生する」⁵²⁾。

鄭土有主編『中国民俗大系・上海民俗』等の記載によれば、上海地区には年末、とくに大晦日に家で祖先と死者を祭る伝統的な祭祖活動がある。祭祀のとき、まず食卓にたくさんの料理や飯、酒などを並べ、蠟燭、線香をたて、祖先と死者を供養する。最後には紙銭と「経疏（寺院からもらった死者の名簿）」を燃やす⁵³⁾。1980年代以降、多くの人々は仏教寺院に死者の位牌を供養しているため、その年末の祭祖活

動も仏教寺院で行うことになった。その伝統的な特徴を表すために、上海市の雲翔寺は「蓮池海会」の法会を「老祖宗饗食年夜饭（祖先に年越しの食事を振る舞う）」と名付けている。

（四）

ここでは1つの重要な点を指摘しなければならない。すなわち、仏教寺院と道教施設が様々な行事と法会を行うのは、人々の「宗教的需要」と深く結び付いていることである。前述に見られるように、仏教寺院、道教施設の「定例的行事と法会」は個人の依頼によって行うものではないが、仏教寺院や道教施設等に足を運ぶ多くの一般住民の「宗教的需要」がなければ、年中行事として毎年行いようがない。

前述の分析に見られるように、仏教寺院と道教施設は各定例的行事と法会を宣伝するために、行事と法会の縁起や案内等の説明を大殿の壁や入り口などに掲示している。例えば、龍華寺の「龍華古寺仏事簡介」には仏事の期日と内容のほかに、各仏事の「意義」も詳しく書かれている。それらの「意義」には仏事の目的と重要性だけではなく、人々が求める「宗教的需要」も含まれる。それらの「意義」をまとめてみると、現在、上海市住民が求める「宗教的需要」には主に次のような内容がある。

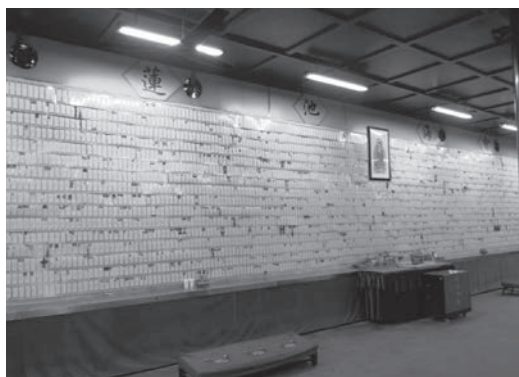


写真22. 往生位牌を供養する龍華寺の「蓮池海会」



写真23. 龍華寺の「蓮池海会」で紙銭を作る人々

「消災解厄（息災、厄払い）」、「消除業障（業苦を取り除く）」

「増福添寿（福を増やし寿命を延ばす）」、「福慧増長（福德と知恵を増やす）」

「祈福迎祥（福を祈り吉祥を迎える）」、「六時吉祥（毎日吉祥）」

「超薦歴代宗親、先亡後化、一切含靈（歴代の宗親や先人、新霊、一切靈魂を済度する）」

「宿業氷消、聞法得度、往生西方（宿業を氷解し、法を聞いて済度を得、西方に往生する）」

要するに、「現世利益」（息災、延命、吉祥、幸福、繁栄など）と「死者供養」（祖先祭祀や死者救済など）は人々の「宗教的需要」に極めて重要な位置を占めている。「龍華古寺仏事簡介」等書かれている「冥陽兩利、過往者往生蓮邦、健在者消災除障、福慧増長（冥陽の双方にはご利益があり、死者は極楽浄土に往生し、健在者は息災、障害を取り除き、福德と知恵を増やす）」というたい文句は、人々の「宗教的需要」の核心をつかんでいる。

「現世利益」と「死者供養」に対する人々の「宗教的需要」は「文化大革命」のような大規模な政治変革を経てもなお持続している。とくに、上海市のような経済先進地域ではこのような「宗教的需要」が経済市場化の発展につれてますます増えている。仏教寺院と道教施設の宗教活動に参加する人数が延べ840.05万人（2012年）に達し、龍華寺の位牌堂に毎年約1万件の紙位牌を供養しているなどの事例は、こうした「宗教的需要」が絶えず増えていることを物語っている。

言うまでもなく、「文化大革命」と「改革開放経済」という2つの大変革を経験した上海市住民の「宗教的需要」には、新たな需要が多く見られる。例えば、一人っ子政策などにより小規模化している核家族の死者への供養や、難しい大学受験に対する合格祈願、市場経済の大発

展に生き残るための祈願などは、1980年代以降の社会変化で生まれた新たな宗教的需要である（写真24、25）。

要するに、多くの人々は主に「現世利益」や「死者供養」などを求めるために、仏教寺院や道教施設等に足を運んでいる。また、仏教寺院や道教施設等には多くの信者を引きつけるために、人々の「宗教的需要」に応じて様々な「宗教的商品」（定例的行事・法会、非定例的法会等）を提供している。信者側と宗教側に存在しているこの「需要と供給」の関係は、1980年代以降の宗教信仰復活と発展を推進する重要な力であると言える。



写真24. 寺院に奉納する「許願帯」（龍華寺）



写真25. 願いを「許願帯」に託する人々（龍華寺）

【注】

- 1) 上海宗教誌編纂委員会編『上海宗教誌』、上海社会科学院出版社2001年、p.10。
- 2) 張化『上海宗教通覽』、上海古籍出版社2004年、p.192～196。
- 3) 上海宗教誌編纂委員会編『上海宗教誌』、上海社会科学院出版社2001年、p.462。
- 4) 1995年の各宗教信者についての統計は『上海年鑑1996』の記載によって作成される（上海年鑑編輯部編『上海年鑑1996』「四十一、民族・宗教」、上海人民出版社1996年10月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 5) 2004年の各宗教信者についての統計は『上海年鑑2005』の記載によって作成される（上海年鑑編輯部編『上海年鑑2005』「四十六、民族・宗教」、上海年鑑社2005年10月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 6) 2012年の各宗教信者についての統計は『上海年鑑2013』の記載によって作成される（上海年鑑編輯部編『上海年鑑2013』「上海概貌・（四）民族・宗教」、2013年11月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 7) 上海年鑑編輯部編『上海年鑑2008』「四十四、民族・宗教」、2008年12月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn）。
- 8) 上海年鑑編輯部編『上海年鑑2012』「上海概貌・（四）民族・宗教」、2012年11月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn）。
- 9) 上海年鑑編輯部編『上海年鑑2013』「上海概貌・（四）民族・宗教」、2013年11月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn）。
- 10) 三隅治雄編著『全国年中行事辞典』「縁日」項、東京堂出版2007年、p.72。
- 11) 丁世良、趙放編『中国地方誌民俗資料匯編・華東卷上』、書目文獻出版社1995年、p.5～9。
- 12) 縁日の宗教活動について、清朝乾隆49年（1784年）に刊行された『上海県誌』には主に次のような記述がある。
二月：「十九日、相伝為観音大士生日、皆詣各寺大士前進香」。
四月：「八日、各寺浮屠作浴仏会、即釈典所載釈迦降生日也」。
五月：「十三日、相伝為閔帝生日、長幼皆醺錢致祭」。
六月：「十九日、相伝為観音大士成道日、邑民亦往各寺進香」。
七月：「中元、祀先以素羞、僧舍為盂蘭盆会。若月晦值大尽日（俗謂地藏開眼）、具於街衢点放地灯、一行多至数十百盞」。
- 13) 上海城隍廟の「上海城隍廟の神誕節日」告示には「以上醮期、本廟均举行科儀法事、以酬謝神靈蔭佑之恩。信徒可至本廟道場登記處登記參加、經資隨緣。部分神誕節日上演酬神戲、信徒可捐戲資、以答謝神恩、功德無量」という内容がある。
- 14) 潘德榮・張曉林編『人間仏教的都市發展模式—以上海玉仏寺為例—』、宗教文化出版社2009年、p.174～175。
- 15) 「龍華古寺2013年仏事簡介」は龍華寺本殿の壁に貼られている。
- 16) 「迎新春拜太歳」告示は上海城隍廟の本殿入り口の両側に貼られている。その告示には「上海地区歴来有焼頭香の伝統。…農曆除夕之夜、在人間是万家團圓之日、在仙界是上天八会神仙大慶之日。…除夕之夜進香祈願、其願望可上聞三天、為衆神所知、則必可衆神護佑、得償所願」という内容がある。
- 17) 上海城隍廟「迎新春拜太歳」告示には「上海城隍廟自明代起、就有新年張灯的伝統。所張之灯、稱為行年灯。行年、指人当年所行之運。行年灯、即是一年之始祈福之灯。灯上書以「迎祥集福、祈安保泰」祥語、灯下懸掛写有供養人姓名的銘牌、護佑信徒流年平安、吉祥如意。…在春節期間燃点神灯、則可以照耀天地、引領信衆、礼告上蒼、獲得福報」という内容がある。
- 18) 鄭土有主編『中国民俗大系・上海民俗』、甘肅人民出版社2003年、p.226。
- 19) 上海宗教誌編纂委員会編『上海宗教誌』、上海社会科学院出版社2001年、p.177。
- 20) 上海年鑑編輯部編『上海年鑑1999』「四十、民族・宗教」、1999年7月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn）。
- 21) 上海年鑑編輯部編『上海年鑑2002』「四十三、民族・宗教」、上海年鑑社2002年8月、上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn）。
- 22) 「迎新春拜太歳」は上海城隍廟の本殿入り口の両側に貼られている。その告示には「財神、是管理天下財源的神靈。…財神聖誕為正月初五。上海歴来於初五子時（正月初四夜十一時至初五凌晨一時）迎財神、俗称『焼路頭』或『接路頭』。上海竹枝詞中載『初五家家迎財神、爆竹声声接路頭』。信徒初五凌晨以清火焚化去年所請的財神法像、以示財神於此日証道成真。再至廟中恭請財神法像至家中懸掛、以求得財神的保佑」という内容がある。
- 23) 智遠居士「玉仏禪寺举行2014年新春納福迎財星梵樂晚会」、2014年2月4日、上海仏教協會「上海仏教網」（www.shfjw.org）。
- 24) 『嘉定県統誌』（十五卷・民国十九年鉛印本）には「財神誕：正月初四夜、商店皆祀財神、懸店号灯於門前。送神時、燃爆竹以敬之、謂之接財神」という記載がある（『中国地方誌民俗資料匯編・華東卷（上）』、書目文獻出版社1992年、p.58）。
- 25) 上海市浦東新区史誌編纂委員会編『川沙県統誌』「第三十四卷風俗方言・第三章歲時節令」、上海社会科

- 学出版社2004年（上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 26) 上海城隍廟・香港蓬瀛仙館編著『拜太歳』、宗教文化出版社2010年、p.124～133。
- 27) 「上海玉仏禪寺正月十五舉行甲午年拜太歳法会」、2014年2月14日、鳳凰網（fo.ifeng.com）。智遠居士「上海玉仏禪寺舉行癸巳年謝太歳吉祥大法会」、2014年1月15日、上海仏教協會「上海仏教網」（www.shfjw.org）。
- 28) 上海通誌編纂委員會編『上海通誌』「第四十三卷社会生活・第九章風俗」、上海人民出版社2005年（上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。智遠居士「上海龍華古寺舉行2014年正月初九大供天法会」、2014年2月8日、上海仏教協會「上海仏教網」（www.shfjw.org）。
- 29) 清朝同治10年（1871年）に刊行された『上海県誌』には「（二月）十九日、相伝観音大士生日、皆詣沈香閣、同善堂進香（六月、九月十九日同）」という記載がある（丁世良、趙放編『中国地方誌民俗資料匯編・華東卷上』、書目文献出版社1995年、p.7）。
- 30) 『嘉定県統誌』（十五卷・民国十九年刊行）には「二月十九日為観音誕。自二月朔持齋、至是日止、謂之観音素。六月、九月朔至十九日皆如之」という記載がある（丁世良、趙放編『中国地方誌民俗資料匯編・華東卷上』、書目文献出版社1995年、p.60）。
- 31) 上海通誌編纂委員會編『上海通誌』「第四十三卷社会生活・第九章風俗」、上海人民出版社2005年（上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。上海市金山県誌編纂委員會編『金山県誌』には「旧時祭祖、称『過時節』、每年六次、称『四時六節』。四時指春、夏、秋、冬、六節指清明、夏至、七月半、十月朝、冬至、年夜」という記載がある（上海人民出版社1990年。上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 32) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「清明水陸法会：龍華古寺特色仏事。毎年清明節前一週舉行、為期一週。…意義：仰仗仏法僧三宝力量、賑濟水陸空一切衆生、冥陽兩利、過往者往生蓮邦、健在者消災除障、福慧増長」という説明がある。
- 33) 智遠居士「上海玉仏禪寺舉行2014年文殊菩薩聖誕点灯祈慧法会」、2014年5月3日、上海仏教協會「上海仏教網」（www.shfjw.org）。
- 34) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「（皈依法会）意義：禮拜文殊開智慧、皈依三宝大吉祥」という記述がある。
- 35) 上海城隍廟の「文昌祈願法会縁起」、2013年5月2日、上海道教協會「上海道教」（www.shtaoism.com）。
- 36) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「（浴仏節）意義：通過外在的浴仏活動、浄化自己的内心」という記述がある。
- 37) 『上海県誌』（三十二卷・清同治十年刻本）には「初八日浴仏、静安寺有香市甚盛、在城則推广福寺、群称大仏誕、即釈典所載釈迦」という記載がある（『中国地方誌民俗資料匯編・華東卷（上）』、書目文献出版社1992年、p.8）。また、『法華郷誌』（八卷・民国十一年鉛印本）には「初八日、釈迦仏誕、静安寺焼香、換牛、置農器」という記載がある（『中国地方誌民俗資料匯編・華東卷（上）』、書目文献出版社1992年、p.10）。
- 38) 上海宗教誌編纂委員會編『上海宗教誌』、上海社会科学院出版社2001年、p.177。
- 39) 上海通誌編纂委員會編『上海通誌』「第四十三卷社会生活・第九章風俗」、上海人民出版社2005年（上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 40) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「（盂蘭盆会）意義：報父母恩、修布施供、上供十方三宝、中奉法界聖凡、下施一切鬼神」という記述がある。
- 41) 上海城隍廟の本殿入り口の両側に貼られている「中元普度消災弭禍平安大醮縁起」には次のような内容がある。「国運昌隆、日新月異、黎民祈盼安康、祈求陰陽和順。但是、天災人禍、今歲不断。我国部分地区民衆遭受乾旱、暴雨、洪涝、泥石流等災害、又続有鉅難、車禍、火災及其他人為災難發生。衆多罹難屈死亡魂、飄蕩無歸、陰陽阻隔、存亡悲慟、若非濟度、難以生化。因此、本道親定於公曆8月22日至24日（農曆七月十三日至十五日）啓建中元普度消災平安大醮三永日、籍以聊尽天職、弘道宣化、普度幽魂、濟物利人、期以和諧陰陽、消災弭禍、風調雨順、国泰民安、超度亡故、濟助厄困、陰陽兩利、合境平安。凡所善願、申請神佑。期望各界善信、大德護法、登名集福、早降拈香、共襄盛舉。謹致。上海城隍廟、2010年八月」。
- 42) 上海通誌編纂委員會編『上海通誌』「第四十三卷社会生活・第九章風俗」、上海人民出版社2005年（上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 43) 『松江府誌』（八十四卷・清嘉慶二十二年刻本）には「若月晦值大尽日（俗謂地藏開眼）、僧人以紙為白蓮船、郷人或以錢米、絮格少許寄紙船中、祈生西方」という記載がある（『中国地方誌民俗資料匯編・華東卷（上）』、書目文献出版社1992年、p.4）。
- 44) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「（地藏法会）意義：紀念地藏王菩薩大願大慈、超薦歷代宗親、先亡後化一切含靈」という記述がある。
- 45) 上海通誌編纂委員會編『上海通誌』「第四十三卷社会生活・第九章風俗」、上海人民出版社2005年（上海市地方誌辦公室「上海通」（www.shtong.gov.cn））。
- 46) 龍華寺「水陸法会介紹・冬至水陸法会予告」は本殿東側の壁に貼られている。
- 47) 冬至水陸法会の功德について、龍華寺「水陸法会

紹介・冬至水陸法会予告」には「水陸法会以施食、妙供、上供諸仏菩薩及一切賢聖、下施法界一切有情、九幽十冥、一切受苦衆生、功德不可思議、無量無辺」という内容がある。

- 48) 「上海城隍廟冬至普度」告示は上海城隍廟の本殿入り口の両側に貼られている。その告示には「冬至、又稱為冬節、在中国古代的天文曆法中、冬至是一年中白天最短、夜間最長的日子、同時也是一年中陰氣至重的一天。鬼魂借此機會走出地府、四處尋求饗祀。因此、古代在冬至這一天、官民例行放假過冬至。皇帝在這一天到郊外祭天、百姓則在家中祭祖、道教宮觀則啓建超度道場、超度九洲分野無人祭祀的孤魂野鬼、給他們以飽食、讓他們超昇仙界。上海城隍廟每年冬至例行舉行冬至普度道場。參加冬至超度道場的信徒、一則超度自己的祖先、以使祖先免受地獄煎熬之苦、通過焚化冥資（錫箔）的方式、以盡自己的孝道。二則通過冬至普度道場、普度九洲分野亡魂厲鬼、以保自己生活環境的清靜」という内容がある。
- 49) 鄭土有主編『中国民俗大系・上海民俗』、甘肅人民出版社2003年、p246～247。
- 50) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「(臘八節) 意義：紀念釈迦摩尼仏成道、煮臘八粥、普施衆生。倡導仏教慈悲喜捨精神、推動慈善公益事業」という記述がある。
- 51) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「蓮池海会、龍華古寺特色仏事之一。寺院在淨処供奉延生祿位、往生牌位、為期一年。四衆弟子、善男信女仏事登記処登記報名後參加。每月初一、十五有法師念經念仏回向、每月三十晚有蓮池会普度焰口。年終有三日法会（農曆十二月十四、十五、十六）」という記述がある。
- 52) 「龍華古寺2013年仏事簡介」には「(蓮池海会)意義：延生祿位消災解厄、消除業障、增長福慧、六時吉祥；往生蓮位仗仏法僧三寶之力、宿業氷消、聞法得度、往生西方」という記述がある。
- 53) 鄭土有主編『中国民俗大系・上海民俗』、甘肅人民出版社2003年、p239。